

編集後記

人生苦あり楽あり

今、世界や日本は“100年に一度”の経済危機と言われていますが本当でしょうか？ 我々が子供の頃は今よりはるかに物がなく貧しい時代でした。戦時中を過ごした方達はもっと悲惨な日々を耐えてきたことと思われまふ。当時はまわりも皆貧しいので、他と自分を比較することもなかったのかもしれませんが、しかし情報社会の今は、絶えず他人と比較することで自らの幸不幸を判断している感じがします。研究も同じです。絶えず他人と比較をしては良い研究はできないのではないのでしょうか？ 自分の発想で自分の世界を作っていくことが大事だと思います。

我々の世代（団塊の世代）は時代のあおりを受けた年代かもしれません。学生時代は学園闘争、現在では定年問題や年金問題、人口の多さのためになにかと問題となる年代です。このため上の年代からも下の年代からも何時も煙たがれているような気がするの私の僻みでしょうか。

小中学校時代はベビーブームの世代のために1クラスの人数は50人から60人、急造したプレハブ教室での授業でした。大学に入ってから勉強よりも大学紛争が大きな論争となりました。良きにつけ悪しきにつけどの大学でも学園紛争に明け暮れた時代でしたが、この時期が現在の私を作ったような気がします。私にとっては最も自分が鍛えられた時代だったのではないかと思っており、この時期なくして今の自分はないような気がしています。こう考えると無駄と思われる時代が後から考えると一番充実した時なのかもしれません。大学卒業時に大学院に行くかどうかを迷った時に、人間は“食う為に生きる”のか、あるいは“生きるために食う”(Don't live to eat, but eat to live.) なのか考えたものです。“生きるために食う”としたら、やはり何かを残したい、そして何か好きな事をして生きていこうと思ったわけです。私の場合、それが研究と趣味のテニスとなった次第です。

趣味で始めたテニスでしたが、これがなくては北海道生活の満足度は半減してしまいます。週末には色々な職種の方々に遊んで貰っており、北海道に来てから沢山の新しいテニス仲間を作ることができました。テニスゲームの勘定は結構人生や実験と似ているものです。4本先取して1ゲームを取得しますが2ゲーム目はまたゼロから始まりまふ。こうして先に6ゲームを取った方が1セット取得です。2セット目は再びゼロの振り出しから始まり、3セットマッチであれば2セットを取った方が勝者です。野球、サッカーのような積み重ねのスポーツではなく、何時もゼロからの出発です。1セット目0-6、2セット目0-5で敗けていて、さらに最後の6ゲーム目で相手にマッチポイントを取られていてもまだ勝つチャンスは残っています。実際そういうケースもあるのです。同様に、逆境と思っても決して諦めることなく頑張れば実験・研究もうまくいく筈です。

若い研究者の方々、精一杯研究に励んで下さい。若くないと思っている研究者の方も頑張ってください。老いるのは年齢ではなく、希望や目標がなくなるからです。

歯学部も入学定員割れなど、受難の時代に入ろうとしています。何とか明るい社会にしたいものです。

今年も第18回YOSAKOIソーラン祭で北海道医療大学は316チーム中10位以内のファイナルに入った。大したものだ。これにあやかり頑張りました。

編集後記 和泉博之 平成21年6月30日

次号（第28巻、第2号）の発行は平成21年12月31日です。

会員各位の投稿原稿募集の締め切りは平成21年9月30日必着と致します。期日厳守の上、ご投稿をお願いします。本誌投稿規定（2007年第26巻、第2号の巻末あるいは歯学部生理学教室のホームページ；<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~physiol/>）をご参照の上、投稿してください。